

地域情報通信 基盤整備事業 に着手



南丹市では2011年の地上デジタル放送への移行や難視聴区域の解消、さらに地域に密着した映像情報を提供するため、地域情報通信基盤整備事業を進めています。情報基盤が整備されますと、双方向通信の機能を利用したテレビ電話なども可能となるほか、緊急情報や福祉情報など、多様なサービスを受けることができるようになります。ITの技術を活用して、私たちの生活環境はますます便利になり、大都市に住まなくても都市並みの便利な生活を楽しむことができるようになります。ここでは南丹市が進める情報化事業を紹介しします。また今後の具体的な整備内容やスケジュールについては、順次広報誌でお知らせします。

【テレビ放送が変わる？】

いま、テレビのコマーシャルでもよく放送されていますが、現行の地上アナログテレビ放送は、地上デジタル放送への移行に伴い、2011年7月24日にはアナログ放送を終了しデジタル放送へ完全移行します。南丹市では、昨年からは園部地区内においてケーブルテレビで放送が開始されていますが、それ以外の地域では2011年には地上デジタル放送に完全移行となります。



【地域情報通信基盤整備事業って？】

南丹市の場合、そのほとんどが山間部であり、日吉町、美山町のほぼ全域と八木町の一部が難視聴区域で、多くの皆さんがテレビ共聴受信施設を設置して組合で管理し、テレビを視聴されています。その多くの施設が地上デジタル化への対応のため設備を更新する必要があります。また現在、民間による光ファイバーが敷設され高速のインターネットサービスが受けられる地域は園部町と八木町の市街地の一部だけで、他の地域は電話線を使った通信速度の遅いISDNやADSLでしかインターネットに接続できません。このため地上デジタル放送と併せ、テレビ番組や映画がインターネットで配信され、パソコンで見られるようになっても、南丹市の多くの地域では情報環境に大きな格差が生じる恐れがあります。

そこで、南丹市の合併協議の中ではそうしたことを見据えて、新市建設計画の中の主要な新市のプロジェクトとして「情報通信基盤の整備」を位置づけています。これは、情報通信網を全市域に拡張し、各家庭まで光ファイバーケーブルを敷設して、市内の公共施設や事業所、家庭を結び、地上デジタル放送や高速インターネットサービス、南丹市の専用チャンネルによる自主放送などを提供していこうとするものです。